

おいしい水を 守るために



この自然をいつまでも守ることが
おいしい水道水を守ることになります。

水道水源の現状

苦小牧市は、南に太平洋を望み、北には市のシンボルともいえる活火山「樽前山」がそびえ、その裾野には国有林をはじめとする広大な樹海が広がる自然豊かな街です。私たちが普段飲んでいる水道水は、こうした山麓で育まれた「幌内川」「勇払川」と「錦多峰川」の3河川の表流水が源水となっており、北海道大学の研究林内や国有林内を流れてくる幌内川と勇払川は「高丘浄水場」へ、同じく国有林地内を流れてくる錦多峰川は「錦多峰浄水場」へとそれぞれ導水されています。

この3河川は安定した水量を保ち、環境庁による全国河川水質調査においても、常に上位にランクされるなど、水質のすばらしさを誇っています。

これらの河川は樽前山麓の中腹に源を持ち、山麓に降った雨や雪解け水が、樽前山の噴火によって堆積した6メートル以上もの火山礫層に深く浸透し、自然ろ過されながら長い年月を経て地下を移動し、湧き出ているのです。

また、昭和60年には厚生省の「おいしい水研究会」から水道水のおいしい都市として選ばれており、名実ともに良質でおいしさが認められた本市の水道水は、まさに自然の恩恵によるものであり、この自然を未来永劫にわたり守っていかねばなりません。

水源保全の取り組み

水道部では平成8年8月に錦多峰川上流での不法投棄で起きた水道水異臭事故を契機に水源の保護保全についての取り組みの一つとして「苦小牧市水道水源の保護に関する指導要綱」を平成9年4月に施行しました。

この要綱は、事故の起きた錦多峰取水場上流の民有地約226haを特に「水源保護地域」として指定し、河川排水基準の設定により、流出の影響が考えられる事業活動などに対して、水道水源の保護に關し必要な指導を行うことにより、安全でおいしい水を永続的に供給し、市民の生命及び健康を守ることを目的としています。

また、高丘浄水場の上流部は国有林や大学研究林として保全されている区域ではあるものの、水道事業としても独自に取り組んでいます。

平成11年3月に勇払川支流の丸山川に隣接する国有林苗畑跡地の約4・2haを国から買受し「丸山水源の森」として位置付け、市民参加の植樹会などにより計画的に整備を行うとともに啓蒙普及に努めております。

今後は、山林内でのゴミの不法投棄が跡を絶たない中、水源のパトロールや河川流域の清掃などを強化していく他、水源環境の保全・整備にも努めていかなければなりません。

※苦小牧市水道部ホームページより抜粋

